

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

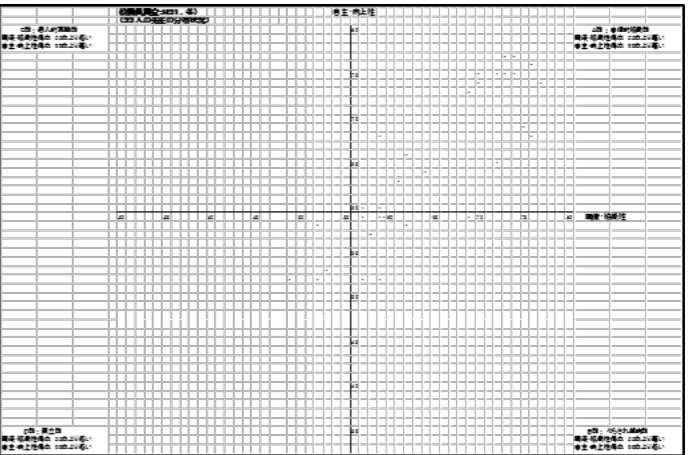
No. D-1

<b>部門名：</b> 校内研修プログラム開発実践部門	<b>エントリー名：</b> 三重県松阪市立徳和小学校・校長 尾崎 佳広
<b>活動名：</b> 職員の意識改革で活性化 ～職員 Q U 調査を学力向上に～	
<b>解決すべき課題：</b> ○課題：教職員の資質ややる気を向上させることで、児童の学力や生活態度を向上させる。 ○実態：児童・・・生活課題を背負った児童（外国人児童、自尊心が低い等）が多く在籍している。家庭・・・児童数 800 人の学校で、保護者の思い・願い（熱心からネグレクト等まで）が多様である。 教師・・・毎年規採用者が配属される、若い職員構成である。熱心であるが、教師主導の分かりやすすぎる授業展開で、子どもの個人思考や話し合い活動が充分保障されていない。 ○仮説：学力を向上させることで子ども一人ひとりに自信を持たせ、自尊心を高めたい。そのことで落ち着いた学校生活を保障し、保護者の願いにも応え、「負の連鎖」を断ち切ることもつなげたい。	
<b>目標・方針：</b> ○目標：教職員の教育力を向上させることで、児童が主体的に取り組む「分かる授業」を日々実践する。 ○方針：教職員が新学習指導要領の趣旨を理解し、示されている未来を切り拓く 3 つの力を子どもにつける。（主体的に判断できる力、多様な人々と協働していくことができる力、新たな問題を発見し解決できる力）そのための授業実践が行えるように、「宣長さんの教え」を理解し、教職員の意識改革や研修を行う。中学校区の各小中学校が「久保牛のポスター」など共通の目標を立て、実態に応じた研修の充実を図る。Q U 調査で教職員の意識を把握し、それがどのように変容したかも確認して次年度に生かす。「家庭学習のしおり」などで家庭にも協力を呼びかけて、児童の学力向上を図る取組みをともに進める。「TOSS の会」や「住民協議会」など地域の方々と連携して、地域の教育力を生かした教育実践を行う。	
<b>活動内容：</b> ① 新学習指導要領でつけない「3 つの力」を「宣長さんの教え」で確認し、共通認識して取り組む。 ② 学力調査やスタディーチェックの結果をもとに、本校児童の強み弱み、課題を把握する。 ③ 学区の 4 小中学校が合同で学習会を行い、校区としてつけない力を共通認識し連携して取り組む。 ・「学力向上をめざす久保牛ポスター」や「家庭学習のしおり」を、4 校が連携して作成する。 ④ 児童の課題を克服するために、各学年で「5 ポイントアップ計画」を立てて取り組む。 ⑤ 本校教職員を対象に Q U 調査を実施して意識など実態を把握し、取り組みを行う。 ・若手の向上心を喚起するために、全国区の講師や校区で成果を上げている教職員を招聘し学ぶ。 ・同僚協働性、自主向上性ともに低くやられ感があるので、ミドルアップダウン方式で意識改革を行う。 ⑥ 各家庭に「家庭教育の手引き」を配布し、学力向上のためにも取り組むよう呼びかける。 ⑦ ボランティアグループ T O S S の会などに協力を依頼し、地域の教育力を生かした教育実践を行う。 ⑧ 再び本校教職員を対象に Q U 調査を実施し、本校の教職員の変容を確認し次年度に生かす。	
<b>活動の成果：</b> ○ Q U 調査で教職員の意識や実態を把握することで、ミドルリーダーを育てそこから若い職員を育て、年配の職員が活躍できる機会を設けるなど、ミドルアップダウンによる実態に応じた教職員の意識改革を行うことができた。 ○どの授業においても、子どもたちが個人思考をしたり話し合ったりする活動が意図的に組まれるようになった。 ○全国学力学習状況調査では若干得点が上がった。それに伴って生活面でも子どもたちのトラブルが少なくなってきた。 ○新学習指導要領の趣旨を保護者・地域と共有することで、「T O S S の会」など活動の幅が広がり、今まで以上に地域の教育力を活用することができた。	
<b>アピールポイント（アイデアや工夫）：</b> ○やる気はあっても自己流で進めてしまう若手と、なかなか新しい方法を取り入れられないベテランが、チームを組んで活動することで、ミドルリーダーがその中心となり両者をうまく向上させる役割を担うことができた。 ○福島のひまわりを育てて、教職員も児童も家庭も地域もみんなで元気になろうと取り組む、若手教職員が育った。 ○中学校区の 4 校（1 中学校、3 小学校）が研修や取り組みを連携して行うことで、結果的に切磋琢磨できた。 ○教職員の意識が向上したことが、Q U の結果からも確認することができた。	

< Q U による教職員集団調査：7月 >



< Q U による教職員集団調査：2月 >




<授業研究>




<中学校校区合同の学習会>



<講師授業に学ぶ>




<読み聞かせ>



<安全見守り隊>




<算数サポート>




<久保牛4校>



<宣長さんの教え>



<修了式の朝>



<ひまわり>

